

おすすめ本紹介

◆テーマ◆

本がテーマの本

●こぐちさんと僕のビブリアファイト部活動日誌

三上 延 原作・監修
峰守 ひろかず 著 KADOKAWA

鎌倉のとある高校にある「旧・図書室」。古い本ばかりが並び、利用者もほとんどいないこの部屋の利用権をめぐって繰り広げられる、書評バトルの物語。

みなさんは、実際に行われている「ビブリオバトル」という書評バトルを知っていますか？ 何人かが、自分のおすすめ本を制限時間内に紹介し、それを聞いた観客の投票で「チャンプ本」を決めるというものです。

この本の「ビブリアファイト」もほぼ同じようなもの。図書部員・卯城野(うしろの)こぐちサンと見習い部員・前河響平クンの二人は、手強い対戦者を迎えて、本への思い入れを熱く語ります。

読んでいるうちに、彼らの紹介する『若草物語』『影との戦い』『はてしない物語』『とある魔術の禁書目録』などが読みたくなるかも。

●青少年のための小説入門

久保寺健彦 (著)
集英社

「ディスレクシア」という言葉を知っていますか？ 知能や理解力などに全く問題がないのに、文字の読み書きだけが困難な学習障害のことです。この小説は、ディスレクシアのヤンキー・田口登と、いじめられっ子中学生の入江一真が、コンビを組んで小説家をめざす物語。

あるきっかけから、登は一真に、いじめをやめさせる代わりに、小説の朗読をすることを持ち掛けます。登は読み書きはできませんが、一度聞いた物語は忘れない特技があり、作家になりたいと思っていたのです。

しゅしゅ朗読をひきうけた一真でしたが、登と一緒に数多くの名作小説を読むうち、いつしか「面白い小説を作る」ことが二人共通の目標になっていきます。

主人公の二人が、名作の山の上にはしゃがみこんでいるこの本の表紙には、太宰治の『道化の華』、芥川龍之介の『羅生門』などが見えています。作中には50冊以上の国内外の名作が登場します。

●華氏 451 度 新訳版

レイ・ブラッドベリ著 伊藤典夫 訳
早川書房

本を持つこと・読むことが禁じられた社会を描いた SF 小説。1953年、つまり約70年前に書かれたものです。

その社会では、本を所持していることが発覚すると、451と刻印されたヘルメットをかぶった「ファイアマン」(昇火士)が出勤、昇火器の炎で書物を焼き尽くし、所有者は逮捕されてしまうのです。

ある秋の夜、模範的な昇火士ガイ・モンターグは、仕事から戻る途中、クラリス・マクレランという風変わりな少女に出会います。クラリスと関わる事で、モンターグは自分の仕事や人生に疑問を抱きはじめて…。

タイトルの「華氏451度」は、本の素材である紙が自然発火する温度を意味するそうです。